

平成 31 年度

北近畿地域連携センター研究助成（教員プロジェクト）

採択課題 研究成果報告書

研究課題名：高精度衛星測位を用いた自動車運転技能確認の研究(2)  
－運転状況記録装置の開発－

研究代表者（申請者）：神谷 達夫  
共同研究者：（研究協力者）岡本 悦司

研究成果の概要：

本研究は、高齢者免許返納問題に関する研究の一環として、運転者の運転特性記録のための装置を開発することを目的としている。本研究にて開発された成果は、運転心理学の実験<sup>1-20)</sup>に使用することができ、高齢者の自動車運転の安全性に対する知見を得ることができる。

本年度は、昨年度に続き、自動車運転技能確認のための運転記録装置の開発に取り組んだ。昨年度の試作よりカメラ周辺と制御ソフトウェアを改善することができた。

## 1. 研究開始当初の背景

高齢者の自動車運転による事故が報じられ、高齢者の事故が増加しているかのような印象がある。しかし、蓮花学長によると 65 歳以上の免許人 1 万人あたりの事故件数は、25 歳から 64 歳までの事故件数と有意な差はないことが報告されている<sup>1)</sup>。ただ、高齢者の事故の規模が大きくなっていることも考えられ、高齢者を含めた運転特性を計測し、事故との因果関係を明らかにすることが、高齢者の免許返納の是非を検討するために必要である、これまで、蓮花学長が運転心理学の実験に用いてきたシステムは、カメラによる運転者の動作の記録が主であった。しかし、自動車の挙動を詳細に記録することができれば、運転特性をより詳細に調べることができる<sup>8)</sup>。蓮花学長によると、交差点での自動車の挙動を詳細に調べることにより、運転者の運転能力が分かるとのことであった。運転者の運転能

力を詳細に知ることができれば、年齢による免許所持制限でなく、運転能力の低下による免許の所持制限が可能であると思われる。ただし、現状では、万人が同意できる運転能力の判定方法が確立されていない。このため、運転能力の確認を容易にするため、新たな機器を開発することを目的として、開発を始めた。昨年度は、試作システムを作成し、動作が可能であることの確認にとどまったが、今年度は実際に動作させて記録が取れることを目標とした。

## 2. 研究の目的

本研究は、運転者の運転特性から運転能力を判定するための方法の確立を最終的な目的としている。そして、その共同研究の前提となる運転記録装置の試作開発が昨年度の目標であった。今年度は、より実用性を高めるため、カメラ周辺をと制御ソフトウェアを改良した。

本研究で開発する運転状況記録システムは、NSS による測位、4 台のカメラ、エンジン等からのセンサ情報の取得が使用可能である(図 1)。このシステムでは、蓮花教授のシステムが 3 台のカメラを用いていたため、それ以上のカメラ台数が対応可能なように想定している。エンジンからのセンサ情報等は、車両の ODB-II 端子から CAN インターフェースを用いて取得する。

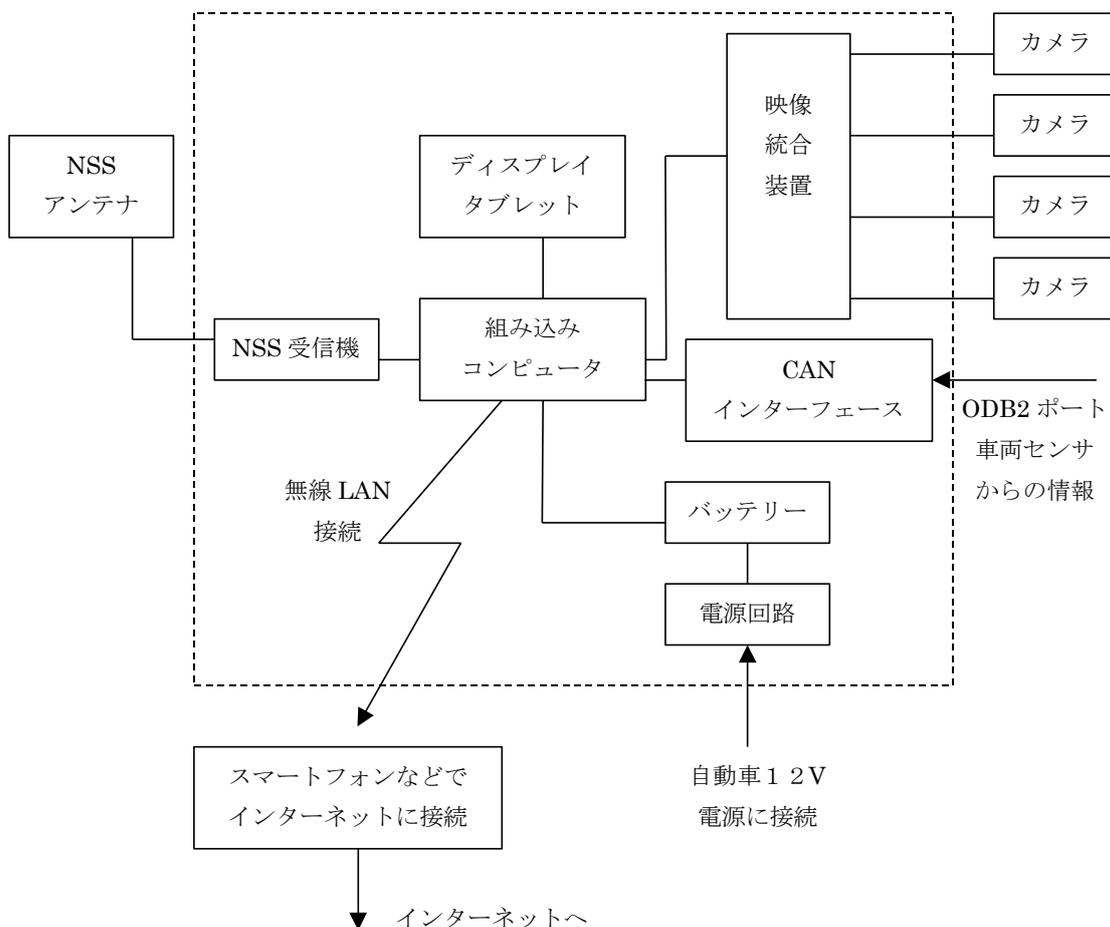


図 1 運転記録システム概要

運転記録装置に記録する位置情報には、NSS(衛星測位システム)を使用した。NSS は、人工衛星からの電波を受信することによって測位している。ただし、広く普及しているカーナビゲーションシステムやスマートフォンに用いられている NSS 受信機で受信した場合の測位精度には、数 m 以上の測位誤差が見られる。しかし、運転特性を測定するためには、さらに高精度な測位が必要となる。このような高精度測位を安価に実現可能にするのが、ネットワーク型の RTK(リアルタイム・キネマティック)測位である<sup>20-21)</sup>。

通常の NSS 受信機は、時間差によって測位しているが、RTK 測位では時間差だけでなく、衛星から到達する電波の位相情報も測位に利用している。また、ネットワーク型 RTK では、基準となる基準局を設置し、その基地局からの補正情報をネットワークから取得することにより、高精度な測位を実現している。ただし、位相情報を利用する受信機は、一般の受信機と異なった回路が必要であり、RTK 測位に対応した受信機が必要となる。また、RTK 測位のためには、測位場所の概ね 10km 以内に基準局が必要となり、基準局の設置も必要となるため、基準局用の装置も試作した。

### 3. 研究の方法

#### 3.1 開発するシステムの特徴

本研究では、図 1 に示すような装置の開発を目指した。本システムの特徴を以下に挙げる。

- 1 車両の位置情報を RTK 測位により高精度に検出(誤差数cm)
- 2 4 台程度のカメラの映像を記録
- 3 小型(200mm x 120mm x 75mm 程度 カメラ、アンテナを除く)
- 4 使い方が簡単(基本的には、パソコンと同様な装置で、タッチパネル入力可能)
- 5 車両のセンサ情報(車速、エンジン回転数、水温、湯温等)が記録可能
- 6 RTK 基準局が測位場所から 10 km以内に必要

#### 3.2 システムの概要

本システムは、GPS 等を代表とした衛星測位システム(NSS)による位置測定と車内外の映像が記録できるシステムである(図 2)。衛星測位の精度は RTK 測位を用い、低速で移動する物体であれば、数 cm の精度が期待できる。

図 2 は装置の外観を示している。使用するコンピュータには、指で操作可能な画面上を触れて入力する入力装置を使用し、簡単にシステムを操作できるようになっている。カメラは 4 台使用可能であり、メモ리카ードに映像とその他センサからの情報を記録する。

電源は自動車からの 12V 系電源を用いる。短時間の停電に対応するため、バッテリーも搭載している。また、車両の ODB-IIポートに接続し、エンジン回転数や水温等も同時に記録することができる。

カメラには、車載用に用いられることの多い NTSC 信号出力のカメラを接続することができる。

使用するコンピュータは、タッチパネル入力機能を持つためマウスなしでも使用できる。また専用アプリケーションを開発すれば、パソコンを意識することなくシステムを使用することができる。



図 2 車載機の外観

## 4. 研究成果と今後の課題

### 4.1 研究成果

今年度は、図 2 に示した機器は、昨年度から継続して開発されている。本年度は、図 3 に示すカメラを接続した。外観上は昨年度からの変化は無い。本年度は、図 3 に示すカメラ類を試験した。

機器本体のタッチパネルによって操作する。アプリケーションは最低限の機能に絞っており、タッチパネル上に表示されたボタンを押すことにより操作することができる。ただし、このアプリケーションソフトウェアは、実験をするにあたって、実際に実験する者の意見によって改良する予定である。

RTK 測位に用いる基準局は、小型のコンピュータと基準局用 NSS 受信機によって構成されている(図 4)。こちらも、昨年度から構成や外観に変更は無い。使用しているコンピュータは、車載機と同一の基板である。このコンピュータに基準局用の NSS 受信機を接続

し、基準局としている。

測位の精度は、文献[21]等で紹介されている機器と同じ機器を用いているため、同程度の精度—誤差数 cm—が確保できる見込みである。



図 3 使用したカメラ



図 4 基準局装置外観

#### 4.2 今後の課題

今年度の開発により、使用可能な装置が作成でき、今年度の目標は達成できた。ただし、

開発に時間がかかり、当初計画通りの実験環境が得られる見込みが無くなったため、装置の実際の運用が困難となっている。今後は、実験のための環境を整備するために尽力する必要がある。

## 5. 主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書、知的財産権、テレビ出演、新聞掲載、HP公開など）

今年度は、実験の準備のための時期にあたるため、発表はない。次年度以降に発表する予定である。

## 6. 参考文献

- 1) 蓮花一己,高齢ドライバーによる交通事故の実態と運転行動,地域創生セミナー資料
- 2) 蓮花一己,多田昌裕,向井希宏,高齢ドライバーと中年ドライバーのリスクテイキング行動に関する実証的研究,応用心理学研究, Japanese journal of applied psychology, 39,3,182-196,Mar-14
- 3) 多田昌裕野間春生,内海章,岡田昌也,蓮花一己運転者行動センシングに基づく運転特性分析(クラウドネットワークロボット),電子情報通信学会技術研究報告,信学技報,113,84,41-46,201316!14
- 4) 多田昌裕,野間春生,天野圭子,岡田昌也,蓮花一己,運転技能自動評価技術に基づくリアルタイム安全運転アドバイス提供システムの提案,映像情報メディア学会技術報告,36,19,5-8,2012 5116
- 5) 多田昌裕,野間春生蓮花一己,装着型センサを用いた自転車の安全運転実態マップ自動生成の試み,映像情報メディア学会技術報告 65,20,1-4,2011!5/20
- 6) 蓮花一己,太国博雄,向井希宏,コーチング技法を用いた高齢ドライバーへの教育プログラムの効果,交通心理学研究,26,1,143,2010
- 7) 戸田英夫,多田昌裕,野間春,蓮花一己,装着型センサを用いた交通ハザードマップ自動生成の試み,映像情報メディア学会技術報告,33,54,37・40,2009/1213
- 8) 多田昌裕,岡田昌也,野間春生,飯田克弘,蓮花一己,運転挙動解析におけるアイマークレコーダデータとジャイロデータの関連性の検討映像情報メディア学会技術報告,33,54,33-36,2009/12/3
- 9) 蓮花一己多田昌裕高齢ドライバーのリスク回避及びリスクテイキング行動の実証的研究,研究結果報告書集:交通安全等・高齢者福祉,15"47-50,2009
- 10) 多田昌裕,瀬川誠,岡田昌也,蓮花一己,小暮潔,装着型センサを用いた運転技能自動評価システムの開発と講習現場への導入の試み電気学会研究会資料.SC,システム制御研究会 2008,13,1-6,2008110/23
- 11) 多田昌裕,瀬川誠,岡田昌也,蓮花一己,小暮潔装着型センサを用いた運転技能自動評価システムの開発と講習現場への導入の試み,電子情報通信学会技術研究報告.PRMU,パターン認識・メディア理解,108,263,1-6,2008/10116
- 12) 多田昌裕,鳥口朋二,岡田昌也,坂本龍哉,納谷太,野間春生,蓮花一己,小暮潔,無線ジャイロセンサを用いた無信号交差点における運転者挙動計測の試み,電子情報通信学会技術研究報告.PRMU,パターン認識・メディア理解,107,491,105-110,2008/2/21

- 13) 蓮花一己向井希宏,小川和久,インシデントを生起させた高齢ドライバーの行動特性の分析,交通科学,39,1,66・72,2008
- 14) 向井希宏蓮花一己,小川和久,太田博雄,高齢ドライバーに対する教育プログラムの開発:一時停止・安全確認行動に注目して, 国際交通安全学会誌,32,4,282-290,2007/12131
- 15) 蓮花一己,向井希宏,小川和久,太田博雄,高齢ドライバーを対象としたハザード知覚教育の効果測定, 国際交通安全学会誌,32,4,274-281,2007/12/31
- 16) 蓮花一己,高齢運転者の特性と交通安全教育(小特集生涯を見据えた交通安全教育),交通科学,37,2,35-39,2006
- 17) 蓮花一己,太田博雄,向井希宏,プロジェクト研究中間報告高齢運転者のための交通安全教育プログラム開発交通心理学研究,22,1,17-20,2006
- 18)蓮花一己,高齢ドライバーへの交通安全教育(特集都市交通と安全)都市問題研究,57,12,62-73,Dec-05
- 19) 蓮花一己,石橋富和,尾入正哲,高齢ドライバーの運転パフォーマンスとハザード知覚応用心理学研究,29,1,1-16,Nov-03
- 20) 蓮花一己,欧州に見る交通安全対策の深め方(特集さらなる交通事故減少をめざして),自動車工業,37,435,14-19,Apr-03[1]菅沼直樹, 自動車の自動運転技術の動向と開発実例, 電子情報通信学会誌, 98(1), 48-53, 2015-01
- 21)岡本修, 初めての1cm測位RTK超入門, トランジスタ技術, 2018年1月号
- 22)国土地理院, ネットワーク型RTK測量について,  
<http://www.gsi.go.jp/common/000080891.pdf>  
(2019.2.28 閲覧)